



ネットヨタ三重&つうぴーす編集室 presents

部活応援隊が行く!!

津商業高等学校
ボート部
編

仲間の存在で、苦しい練習も乗り越えられる

津商業高等学校ボート部

高校から競技を始める部員がほとんどにもかかわらず、優秀な成績を収める津商業高等学校ボート部は、インターハイ出場を目指して、季節や天候を問わず、粘り強く練習に励んでいます。昨年3月、部としては初となる、全国高等学校選抜ローイング大会での入賞を果たしました。



Q1 競技の魅力は？

A1 (金森さん) 中学3年生のときに、学校のウェブサイトでもボート部を知り、インスタグラムを見て、「これだ!」と思い入部を決めました。「エルゴメーター」というトレーニングマシンで、自分の記録が伸びたときがうれしいです。

3年生 金森 梨心さん (かなもりこ)

Q2 大変なところは？

A2 (赤塚さん) 身長が高い方がひと漕ぎが長いので、体格差がある子とペアを組むときは息を合わせるのが大変ですが、一緒に頑張る仲間がいるから続けられます。

(金森さん) 「エルゴメーター」でのトレーニングです。20分漕ぎ続けたり、2000メートルを測定したりと、1人で黙々とやるのが、体力的にも精神的にも大変なんです。その分、大会で勝てたときは何よりうれしいです。

二次元コードを読み取るとボート部のコメントが見られます。



Q4 部活を通じて学んでほしいことは？

A4 (丸山先生) 人任せにしないで、自分で考える力をつけてほしい。仲間と息を合わせるボート競技は、仲間を思いやる気持ちが大切。顧問として、部員の話に耳を傾け部員同士が良好な関係を築けるように、アドバイスするなどして見守っています。信頼関係がないと練習は面白くないですし、楽しいからこそ技術は伸びると考えています。

(赤塚さん) 挑戦することが好きな性格で、高校からボートを始めました。4人の漕手がいる「クオドルプル」で、みんなと一緒に漕いで息が合い、速く進むのが一番楽しいです。



3年生 赤塚 鈴さん (あかつかりん)

Q3 部の目標は？

A3 (丸山先生) 県や東海大会でライバル校に勝ち、インターハイ、全国選抜、国スポに出場入賞することです。



顧問 丸山 亮太先生

